

[神戸市視察報告(平成7年2月24日 成人保健課係長)]

阪神・淡路大震災下にある、神戸市の視察報告

平成7年 2月27日
成人保健課地域看護係
藤井光恵

視察日 平成7年2月24日(金)
視察先 東該保健所、本山第3小学校、神戸市役所

<東灘保健所所長 石井 昌生 >

- 今回の非常時にあたって最も有効だったのは、情報を集約し指揮にあたることのできる有能な事務職員(当日Cの場合は本田保健課長)の存在だ。
 - 従来の保健所の活動のテンポに慣れた職員にとって、この非常時のテンポは急激すぎて対応に大変戸惑った。
 - 他都市からの応援保健婦の機敏な動きに学んでいる。
 - 名古屋市からは医師も派遣して戴いているが、保健所医師にとって有効な学びの機会であると考えている。貴市の業務を圧迫していなければ、受入れの体制にある。
 - 医師としての業務をして戴くには、HC業務が修復されていないことや派遣期間が限られている。むしろ、様々な活動を医師の視点でみてほしい。
 - 地域の医師会との関係もあり医療救護班を撤収する方向を打ち出しているが、医師会が果たしてどれだけそれに変わるか不安はある。
- 今後、避難所にいる人達のケアの問題が浮上してくると予想している。

<東灘保健所保健相談係長 前田 和江 >

- 今回の災害時における保健婦の活動についてお尋ねした -
- 当日出勤できたのは、所長、保健課長以下4～5名だった。
- 当初2日間、泥に汚れた遺体の死後の処置に追われた。(死者長田区700余名、東灘区2000余名)
いち早く援助の申し出のあったのは、「サポート神戸」(東京に事務局のあるボランティア団体?)である。
- そこから、必要なものはないかという電話が入った。何が欲しいのかもわからずに居たところ、必要とおもわれるもの即ち、バイク5台・自転車20台・ポータブルトイレ10数防災の腕章(見本あり)などを届けてくれた。
- 22日ころまでは、各保健婦が受持ちのねたきり者等の安否を確認していた。

150件程対象のうち131件訪問。そのうち、30件在宅、3人死亡、その他転出等だった。

・次に、保健婦を2班に分けて活動した。

その一つは、ローラー作戦を行うための準備。もう一つは、避難所の救護所作りである。

- 1月末頃からローラー作戦を開始したが、ローラー作戦についても、所内の意見と同時に「サポート神戸」の助言もあった。

- 被災4～5日ころから、ボランティアの申し出が区役所に集まってきた。

そこで、申し出のあったボランティアを回してもらうように手配し、ローラー作戦の人員が確保できた。(本山第三小学校で会った市立西市民病院の若い看護婦乾さんもこれに参加した由。この人はつぶれた5階に勤務していた。)

- 2月初めから、厚生省からの応援の保健婦が入ってくれた。

ローラー作戦後のフォローを応援の保健婦にお願いすべく段取りをしていたら、広島市の保健婦(課長)が、そこの部分を引き受けてくれて、台帳づくり、分担等すべて手配してくれた。とても助かった。

- 保健所に準備してあった救急箱は、棚から落ちて他の落下物の下敷きになったまま1週間放ってあった。

- 名古屋からは、医師も派遣していただいて大変ありがたい。

医療に関わりの強いようなケースを依頼しているが、保健婦と一緒に徒歩で訪問して戴くなど恐縮している。

- 3月上旬で医療班を撤退する方針が出されたが、私としては大変不安であり医師の派遣は心強い。

- 他都市の保健婦の動き方をみて学ばせて貰っている。

<本山第3小学校 第9次東市民病院医療班 木下課長他 >

- 来所者は2～30名程度になった。
- 医療班の撤退にむけて、明日HCへ打ち合わせに行く。
- 次班は連絡員が管理職でなさそうだが、医療班の撤退するとなるといろいろな事務的な事もあるだろうが.....

<神戸市衛生局健康増進課 内野主査、地域医療課 谷口係長 >

- 当日の出勤は県庁で20%程度、HC4～5名程度、市本庁は企画局長と市長?
- 通信網の途絶により、情報が入らないことが致命的。
- 医療チーム、ボランティアなど個別に入ってしまうので、本庁集約も困難。
- 外国医療ボラの受入れには大変神経を使う。
- 本庁におけるボランティア、医療チーム、医薬品等の受入れ部署が混乱した。
医薬品等の受入れ部署、国内分は薬剤師が担当したが、国外分は国際課が担当した。
- 医療ボラは衛生局健康増進課が、一般ボラは民生局が担当。
- 市庁舎は自家発電と井戸水が確保されており、暖房等に関してはよかった。
- 一方、HCはこれらが無いため、寒くて、真っ暗で大変。
- 最寄りのHCへ参集したが、区内調査等に行こうにも地理が不案内でてきぱき動けない。
避難所になっている公所は、日頃から公所を中心にした地図やマニュアルを準備しておく。

- 医療班の撤退と共に今後、ケアニーズの増加が予想される。
- 今、弱者優先で高齢者の仮設住宅入居を急いでいるが、ここが高齢者の集団になり新たな問題を抱える事になることが予想される。
- 市役所1階は、避難場所になっており(?), 多くは住所不定者のようである。
- 市役所1階の仮設電話は無料ということもあって、一杯であった。海外へも無料でかかるということで、夜ともなると外国の人が多く利用しているそうだ。
- 今回の震災では高齢者の方々が多く犠牲になられたが、ステーション対象者85人中なくなった方は5名だった。
- ステーションは1か所倒壊したが、後は続けている由。

<雑感>

- 市街地は、倒壊、半壊、傾いたもの、そのままのものが入り交じって存在しており、異様な光景に感じた。
- この様な事態が本市でおきたとき、私はどのように動けるのだろうか。
- 応援部隊のように少し距離をおいたところの人の冷静な判断が採用されるような仕組みを準備しておくことが必要なように感じた。